

広報誌

緑のそよ風



Main Contents



新年のご挨拶	1	東京消防庁から表彰状授与	6
リウマチ医療連携手帳	2	市民講座&クリスマス・コンサート	7
緊急医療救護所 設置・運営訓練	4	topics・information	8
病診連携学術講演会 開催報告	5		



新年のご挨拶

八王子医療センター病院長
池田 寿昭

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、健やかに新年を迎えられた事とお慶び申し上げます。

八王子医療センターでの新体制が発足してから3年目の年を迎えますが、一昨年の思いもかけない大学での一連の不祥事により、皆様方には大変ご迷惑をお掛け致しました。

しかし、新たな東京医科大学として再出発を図る絶好のチャンスととらえ、八王子医療センターの職員も一致団結して、前進していく所存です。そして、近隣の医療機関の先生方と協力して「顔の見える連携」を深め、患者さんやご家族の方々からも信頼され安心した健全な病院を目指していきたいと思います。

2020年はセンター設立から40年を迎えようとしており、現在の建物の老朽化は避けて通れません。そのためには、新棟建設が必須となってきております。そのための準備を昨年より行ってきておりますが、学校法人東京医科大学との連携のもと一歩ずつ前へ進めていきたいと考えております。そのような状況下で、八王子医療センターの基本理念「人間愛に基づいて、患者さんとともに歩む良質な医療を実践します」に忠実に、さらには「医療安全なくして病院経営を語るべからず」を肝に銘じ、よき医療現場を展開していきたいと考えております。

本年も先生方のなお一層のご指導、ご鞭撻を頂きながら、信頼される医療機関として活動していければと思っております。

最後になりますが、皆様方にとりまして実り多い平穏な年でありますことを祈念し、年頭の挨拶にかえさせて頂きます。



医療機関が連携し、患者が安心して医療を受けることができるように 「リウマチ医療連携手帳」を作りました

リウマチ科 科長
青木 昭子

『地域連携クリティカルパス』の運用が始まったのは、2006年、今から14年前のことで、東京都では5大がん（肺がん・胃がん・肝がん・大腸がん・乳がん）と前立腺がんの患者さんのために東京都医療連携手帳が作成され、都内医療機関が共通に使用できるようになっています。計画策定病院は「がん治療連携計画策定料」、診療所等（連携医療機関）は「がん治療連携指導料」が算定できるようになっていますが、あらかじめ手続きを済ませておくことが必要で、せっかく作成された手帳がフル活用されているとは言えない現状です。



図1 「東京都医療連携手帳」
左：前立腺癌、右：乳癌

がん以外の疾患では、脳卒中、大腿骨頸部骨折、糖尿病、狭心症・心筋梗塞、慢性腎臓病・腎不全などに対する地域連携クリティカルパスが運用されていますが、関節リウマチについてはパスを運用している地域・病院はまだ少数です。

さて、八王子医療センターのリウマチ科はリウマチ・膠原病疾患の治療を専門とし、2011年4月から外来・入院治療を行っています。通院している患者さんの多くは、高血圧や心疾患などを地域の医療機関（かかりつけ医）で治療しておられ、3カ所以上の医療機関に通院している患者さんも稀ではありません。2019年10月（4週間）にリウマチ科を受診した患者さん258人（男性68人、女性190人、平均年齢65.4歳）に聞き取り調査をしたところ、74%の患者さんがリウマチ科以外にも通院中で、43%が八王子医療センター以外の医療機関に通院していました。市内の整形外科診療所、S病院の内科、当院の皮膚科と耳鼻咽喉科に通院中の70代男性、市内の内科診療所、H病院の整形外科、T病院の泌尿器科に通院中の70代男性、院内の循環器内科、呼吸器内科、内分泌代謝科、整形外科に通院中の80代女性など、改めて医療機関間の連携はもちろん、院内の診療科間の連携の重要性も実感しました。

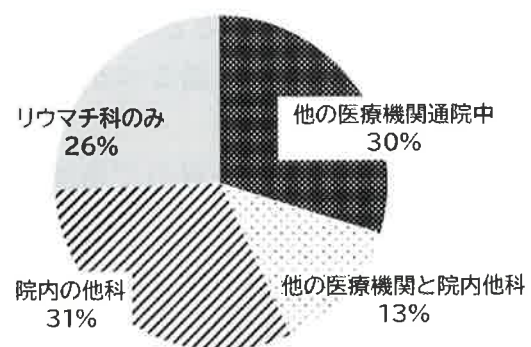


図2 リウマチ科通院患者さんの受診状況

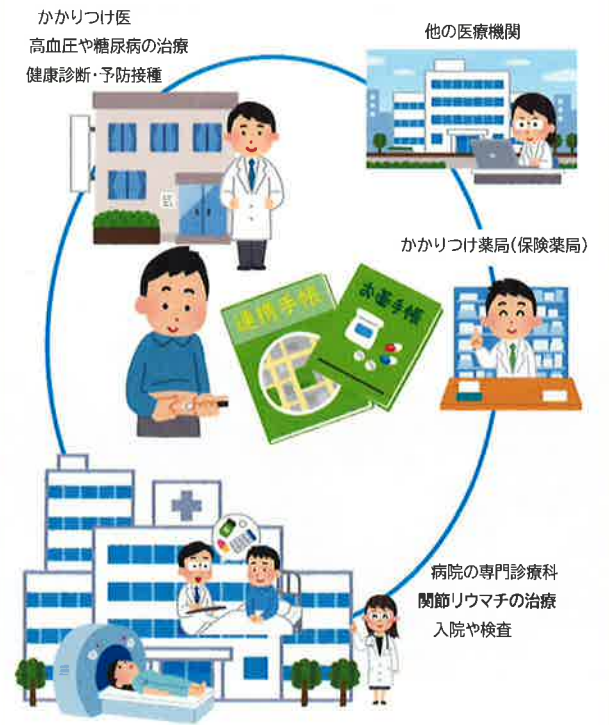
2019年9月 複数の医療機関が情報を共有することで、患者さんが安心して医療を受けることができるよう、東京都医療連携手帳をもとに「リウマチ医療連携手帳」を作成しました（図3）。

（図3）

- ① 患者さん自身も病気の状態を把握できるように、発症時の状況や合併症を記入するページから始まります。

- ② がんの化学療法のように標準的なスケジュールはありませんが、外来受診や検査の予定を書き込むページもあります。

連携手帳を用いた診療の流れ
医療機関や薬局に、連携手帳をお手帳を提示して最新の情報を共有しましょう



- ③ 通信欄に書き込むときは、患者さんにも内容を説明するようにしています。

①の情報を記入するのが、思ったより大変で、手帳をお渡しできた患者さんはまだまだ少数ですが、今後少しずつ利用していただける患者さんを増やしていこうと思っています。

③の通信欄にコメントいただければ幸いです。

大規模災害に備え、地域ぐるみで楽しみながら 「緊急医療救護所」設置・運営訓練を実施

総務課 防火防災対策室長
丸山 幹夫



けが人が集中する中トリアージをする参加者

令和元年10月6日(日)、今年で4回目となる大規模災害に備えた「緊急医療救護所」設置・運営訓練が実施されました。

「緊急医療救護所」は、阪神淡路大震災や東日本大震災の時に、多数のけが人が集中して医療機関が混乱したのを教訓に、病院で治療を受ける人の優先順位を決める拠点となります。

震度6強の地震が発生したことを想定して、八王子市の職員や八王子市医師会の医師が中心となり、地域の歯科医師会、薬剤師会、柔道整復師会、日赤奉仕団、看護学校の生徒たちがトリアージや軽症者の処置を行い、近隣大学の学生がけが人を病院へ搬送したり記録や通信担当を担い、近隣自治会員や参加者のお子さんたちがけが人役となり、消防署、消防団、警察署も協力して本番さながらに、緊張感の中にも楽しく学ぼうという積極的な姿勢で効果的な訓練が行われました。

総勢310人の参加者があり、検討会では、八王子医療センターに参集するすべての人で、一人でも多くの人の命を救いたいと積極的に意見を交換していました。参加した方たちには、大きな成果を収めることができました。

一方、途中でおしるこを食べたり、はしご車の試乗体験が行われたり、終了後には傷病者役として逼真の演技をした方に池田寿昭病院長から演技賞が贈られるなど、参加者が楽しむイベントも用意されました。

この模様は、NHKのお昼のニュースでも取り上げられました。参加者からは「今年も各地で災害が発生しているので、実災害に備え訓練を重ねる必要がある」との声もいただき、今後も続けてまいります。



軽症者の処置をする診療エリアの参加者



病院へ重傷者を搬送する学生ボランティア

『第30回病診連携学術講演会』開催報告

総合相談・支援センター 医療連携室
田中 博一



2019年10月28日(月)、京王プラザホテル八王子において、第30回病診連携学術講演会を開催しました。

本講演会は、八王子市医師会との共催で2001年から18年も続いております。今回も70名のご臨席を賜り盛大な会となりましたが、特に当初から支えてくださった八王子市医師会の先生方、歴代医師会長のお元気そうなお姿を拝見し大変な重みを感じました。

今回は「脳卒中治療」をテーマに救命救急センター 弦切純也先生、脳神経外科 神保洋之先生の講演に、座長をお受けいただいたみなみ野病院 飯田達能院長のご巧妙な切り口で受け手、送り手それぞれの立場からの要望、発展的な意見交換が繰り広げられました。

また、その後の情報交換交流会においては、冒頭に講演会からご出席いただいた東京医科大学病院 三木保病院長にご挨拶をいただきました。

その後乾杯に移り、八王子市医師会から石塚太一会長、西島重信副会長にご挨拶をいただきました。

医療センターからも各診療科を代表し、呼吸器内科 寺本信嗣教授、消化器外科移植外科 河地茂行教授、耳鼻咽喉科頭頸部外科 近藤貴仁講師、また医局長 今野理講師から熱心なPRがありました。

これまでご出席いただけなかった先生も是非一度お気軽にお越しいただき、当センターの医師との親睦を深めていただけたら幸いです。継続してご出席いただけるよう、毎回趣向を凝らし、日常の診療にお役に立てる、最新の医療情報の提供に努めてまいります。

今や恒例となっている本講演会は、八王子の医療連携の基本を成す事業だと思っています。未来永劫続けていくことこそ、八王子地域の医療の進展につながるものだと思ってやみません。

2020年は八王子医療センターも開設40周年を迎えます。開院当初からの紹介を重んじた病院コンセプトを今一度振り返り、医療連携室スタッフ一同、歴史を繋いでいく重要な役割を意識して業務に取り組んでまいります。どうかこれからも変わらぬご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

40th ANNIVERSARY

丸山防火防災対策室長が東京消防庁から 予防部長表彰状を授与される

事務部長
吉岡 博

令和元年11月12日(火)、八王子消防署において、火災予防業務協力者等表彰式が行われ、丸山防火防災対策室長が、防火管理技能者業務適切功労者として、予防部長表彰状を授与されました。

東京消防庁では、春と秋の火災予防運動の際に、火災予防業務や防火管理業務、広報業務、人名安全対策等推進に功労のあった方や団体には感謝状を授与、消防設備士、危険物取扱者、防火管理者、防火管理技能者として功労のあった方には表彰状をもってその功労に対し表彰しています。

今回の表彰は、歴代の総務課長(防火・防災管理者)の下、防火管理技能者として積極的に防火管理業務の補助を行い災害の発生防止に寄与した功労に対して表彰されたものですが、これは、まさに年3回の総合防災訓練に病院長を筆頭に幹部全員が参加したり、自衛消防本部隊が毎月訓練を行ったり、各所属でも防災訓練を実施したり、消防設備の維持・管理を徹底したりして、当センター全体で防火・防災に対して積極的に取り組んでおり、これらを総合的に認められての受賞だと思料します。

当センターは、今後も池田病院長の管理の下、防火・防災管理者である総務課長を中心に、日々防火・防災意識の向上に努め、教職員をはじめ患者さんの安心・安全の確保に取り組んでまいります。



八王子消防署長から東京消防庁予防部長表彰状を授与される

「第 60 回市民公開講座&クリスマス・コンサート」開催される

総合相談・支援センター 医療連携室
中村 緑



令和元年12月7日(土)、八王子医療センター手術棟3階講堂において、市民公開講座とクリスマス・コンサートが開催されました。

まずは、「消化器がんを早く見つけましょう～検診・ドックでわかること、わからないこと～」と題し、消化器外科・移植外科 河地 茂行教授による講演が行われました。消化器がんの早期発見がいかに重要かを、胃がん、大腸がん、

肝臓がん、膵臓がんそれぞれについて、治療法とともにわかりやすくお話いただきました。

続いて、Dr. shige & MID singers によるクリスマス・コンサートです。実は河地先生と有志の保護者の方々と活動されているグループで、普段は教会で聖歌隊として活動されているとのことでした。会場を埋め尽くすほどの患者さんやお見舞い、地域の方々が、プロ顔負けの美しいハーモニーと透き通る爽やかな歌声を楽しみました。

コンサートはジョン・レノンの「Happy Xmas」に始まり、「あらののはてに」「きよしこの夜」「もろびとこぞりて」「ジングルベル」など誰もが知っている曲目で会場も暖かい雰囲気となりました。懐かしい馴染みのある曲では、一緒に口ずさむ人たちの光景が多く見受けられました。

そしてスクリーンには、パイプオルガン奏者で有名な岩崎真美子先生が映し出され、伴奏に合わせての合唱に聞き入りました。最後は、サンタクロースが現れ、会場のお客さんに小さなプレゼントをサプライズで配布すると誰もが笑顔になり、MID singers のテーマソングである「クリスマスララバイ」をしっとりと歌い上げフィナーレを飾りました。会場からは温かく惜しみない大きな拍手が送られ、初冬の午後の素敵なひとときとなりました。

当院では、市民公開講座を毎月第1土曜日の午後で開催しており、医師やコ・メディカルが病気に関する理解を深め、取り組み方や最新の医療情報など、知って得する為になる講座をわかりやすく提供しています。是非一度お誘いあわせの上、足を運んでいただけたら幸いです。



topics



2020年(令和2年) 4月
八王子医療センターは 開設 40周年を迎えます。

information

第 61 回
市民公開講座

『形成外科医のまぶたの話』
～できものから眼瞼下垂～

演者：形成外科 吉澤 直樹
日時：2020年2月1日(土)
13:30～14:30(開場13:00)

(演者よりひとこと)
年齢を重ねるとともに増える「目の周りのできもの」やまぶたの開けづらさなど、まぶたのあれこれをわかりやすく解説します。

お問合せ：総合相談・支援センター
医療連携係
電話：042-665-5611 内線 4147

第 62 回
市民公開講座

『心臓リハビリを知って 心臓病を予防しよう!』
～自覚症状はなくても心臓は衰えています～

演者：リハビリテーション部 氏家 和紀
日時：2020年3月7日(土)
13:30～14:30(開場13:00)

(演者よりひとこと)
安静が大事と言われていた心臓病ですが、近年は、運動が予防に重要と言われています。心臓リハビリを活用して、健やかな生活を過ごしていきましょう!

お問合せ：総合相談・支援センター
医療連携係
電話：042-665-5611 内線 4147

